

職藝学院

アゴラ造園(株) 徳原 祥普/(株)田中造園 田中 啓介/(株)小関田中園 田中 則雄

概要

- 名称 : 専門学校 職藝学院
所在地 : 富山県富山市東黒牧298 (北陸自動車道富山ICから車で20分程度)
設立 : 平成8年に「富山国際職藝学院」として設立。その後平成18年に校名を「職藝学院」と改める。

今回の研修では、本学院の教授で(株)久郷一樹園の代表取締役でもある久郷慎治先生と常勤講師の柳真子先生に学院内を案内して頂いた。

最初に案内された建物は環境職藝科、造園コースの実習棟。(写真-1)この建物は学生が卒業製作で建てたとのことで、その完成度の高さにまずは驚かされる。中に入ると、学生が冬季に製作した竹垣が並んでいた。中には竹穂垣(写真-2)や網代垣など、普段の現場ではなかなかお目にかかれないような竹垣もあった。またそれぞれの竹垣に値札がついており、写真-2の竹穂垣が¥13,000と格安で販売していた。

次に案内されたのは、建築コースと家具・建具コースの実習棟。ここでの柳先生のお話で印象的だったのは、「最近の大工職人は、曲がった材を嫌う傾向があり、そういった材を使えない職人が多いが、職藝学院の卒業生は、曲がった材もみんな使える。」本来、曲がった材は直線的な材と比べ強度もあるため、有効に活用すべきというお話もあった。また、建築の学生たちは入学して最初の半年は、自分たちが使用する工具(カンナやノミ)の刃研ぎをひたすら練習するとのこと。こういったお話を聞いて、実学実践を重んじる職藝学院の強さを感じた。

最後に学院の概要をスライドで紹介して頂いた。驚いたことに卒業した学生の就職率は100%であり、このことが職藝学院で培われる技術力の高さ、また周囲からの本学院に対する信頼の高さの表れだと思う。また、職藝学院の理念である「建物づくりがわかる庭師」「庭づくりがわかる大工」を目指すという考え方は、私にとっては斬新であり感銘を受けた。確かに、お互いの住む領域は違いながらも、一つの空間をより調和させるためには領域の垣根を飛び越える感性と技術力が必要だと思う。また、これができる技術者が求められる時代もそう遠くはないのではないかと感じた。そしてこの考え方は、我々造園業界の今後の発展につながる鍵にもなるのではないかと感じた。



(写真-1)

(写真-2)

池田屋安兵衛商店

(株)勝楽園 碓石 豊/(株)豊和緑地 豊田 弘

富山市堤町通りに黒と白のグラデーションに包まれた越中反魂丹（はんごんたん）の老舗「池田屋安兵衛商店」がある。越中反魂丹とは腹痛、胃弱、胃もたれなどに効く胃腸薬で越中富山藩の二代目藩主 前田正甫（まさとし）が反魂丹を改良をし開発に成功したものだ実際に反魂丹を購入して飲んでみた。苦く仁丹に似た味がし効果は有難さや老舗ならではの効いた感じがした。店内では丸薬の手練り実演がなされており古来の製法をまじかで見ると他に漢方薬や薬草など私たちの身の回りにある野草までが薬になる事に触れることができる。私たちの生活の中に体内調整をする材料に囲まれているのだと思った。建物の中は昔の薬売りの数多くの子引出があり木造りの温かみのある雰囲気落ち着く。置き薬の発祥地だからか薬への意識が前面に出ている印象の強いところだ。薬に依存している現代だからこそ本来の薬の在り方に触れるきっかけになる場所である。



白壁と瓦の土蔵造り



薬の説明に耳を傾ける



熱心に説明を聞く会長



昔はこういう道具を使って薬を作ったそうです

輪島朝市～白米千枚田～能登金剛(遊覧船)

(株)植文 渋谷 隆博/(株)アティ 中島 洋志/(株)西部緑化 内藤 有二

6月6日 研修2日目

■輪島朝市

日本三大朝市のひとつ、輪島朝市から研修2日目のスタートです。前日の余韻も冷めやらぬまま、ホテルからバスに揺られて1時間弱、何の偶然か輪島市民まつりと日程が重なり、少し遠めの駐車場へバスを止め、輪島川沿いを歩いて会場へ到着。前日、バスガイドさんより「買う前に値段交渉しないと損ですよ」とアドバイスをいただき、値段交渉を始めると「ウーン、余りまけられないけどその代わりにノドグロと海老と後、これとこれも」と気が付けば発泡スチロールがいっぱいになっていました。逆に心配になり「おばちゃん大丈夫なの？」と聞くと「大丈夫だよ買ってくれて、おいしく食べてくれればそれでいいんだよ」と満面の笑みを浮かべ「また来てね」の一言、平安時代から約千年続くと言われる輪島朝市の懐の深さを感じました。

■白米千枚田「しろよねせんまいだ」

小さな田が重なり日本海の海岸まで続いています。水田一面当り約20㎡から最小面積が新聞紙1枚程度まで有るとの事。日本の棚田百選、国指定文化財名勝、(日本の原風景)と呼ばれ、日本で初の世界農業遺産に認定されたとの事です。又、10月～3月まで「あぜのきらめき」と言う太陽光発電LEDのイルミネーションイベントを行っているとの事で、これはペットボトルに太陽光パネル、充電電池、LEDを入れた(ペットポタル)と言われる物を約21000個設置して自然発光させているそうです。



輪島市街



輪島朝市



白米千枚田



みんな揃って記念撮影



能登金剛遊覧船



基盤島と虎の岩

ギネス世界記録にも認定されているとの事でした。道すがら、15分程度の通して稲作時期、イルミネーション時期と様々な顔を持つこの白米千枚田をもう一度じっくり見てみたいと思いました。

■能登金剛（遊覧船）

2箇所所有る船着場のうち巖門近くの「のと金剛センター下」から55人乗り（15t）の遊覧船に乗船して国定公園能登金剛「巖門」を周遊です。巖門洞窟を始め、鷹の巣があったと言う高さ27mの鷹の巣岩や源義経に由来する碁盤島と虎の岩の間を抜けて南端にある日本最古の木造和式灯台（旧福浦灯台）を周る約20分の行程でしたが一番印象に残ったのは所々に有る岩海苔を取る為の人工的に作られた採集岩場を見た時でした。日本海の荒波の中、先人達が苦勞を重ね、命の危険を顧みず、今日まで生きて行く為の術を後世に残してきた事に感銘を受けると共に、職種は違えども、とても大切な事を教えられた気がしました。



船着場にて

總持寺祖院

(株)アップフィールド 上原 礼壽 / (株)池田園緑化 池田 英夫

石川県輪島市門前町門前にある曹洞宗の寺院である。山号は諸岳山。通称、能山（のうざん）あるいは岳山（がくざん）。かつての曹洞宗の大本山「總持寺」。本山の機能が横浜市へ移転する際に、移転先が「大本山總持寺」となり、能登の「總持寺」は「總持寺祖院」と改称され別院扱いとなる。元は諸岳寺（もろおかじ）と呼ばれた行基創建と伝えられる密教系寺院で、開創は700年余もの昔にさかのぼります。

日本海にマサカリのように突き出た能登半島の一角、櫛比庄（現在の石川県鳳至郡）に諸嶽観音堂という靈驗あらたかな観音大士を祀った御堂がありました。そこの住職である定賢権律師が、ある夜に見た夢の物語から、總持寺のあゆみが始まります。

元亨元年（1321）4月18日の晩のこと、律師の夢枕に、僧形の観音様が現れ、

「酒井の永光寺に瑩山という徳の高い僧がおる。すぐ呼んで、この寺を禅師に譲るべし」と告げて、姿を消されたというのです。

不思議な事に、その5日後の23日の明け方、やはり能登の永光寺室中（方丈の間）でいつも通り、坐禅をしていた瑩山禅師も同じような夢のお告げを聞きました。諸嶽観音堂は、真言律宗の教院であり、瑩山禅師はかねてから禅院にしたいと念じていました。夢のお告げで、瑩山禅師は入山しようと観音堂の門前に進みます。すると門前に亭があり、禅師はその鏡鉢を打ち鳴らして2つの屋根の楼門を仰ぎみます。山門の楼上には、

「大般若経六百巻」が備えられ、手前には放光菩薩が安置されていました。すると、たくさんの僧侶たちと律師自らが出迎え、歓迎しております。禅師は前に進み、この楼門をくぐります。おもわず、「總持の一門、八字に打開す（門を八の字のように打開する）」と唱えたのです。諸堂を巡り、その壮観さに驚きました。

このようにして瑩山禅師は、定賢権律師の



三樹松関にて



山門



経堂

入山の要請を快く受け入れて、諸嶽観音堂に

入院します。前述の『縁起』本文中に「入寺の後、30日を経てまた夢をみる云々」とあり、
禅師の入寺は、元亨元年5月15日（夏安居）結制の日であったことが知られます。

禅師と律師は、ともに夢告が符合することに感應道交して、律師は霊夢によって一山を寄進し、
禅師は快く拝受し、「感夢によって總持寺と号するはこの意なり」と述べられておられます。

寺号を仏法（真言）が満ち満ち保たれている総府として、「總持寺」と改名し山号は諸嶽観音堂の
仏縁にちなんで「諸嶽山」と決定しました。翌元亨2年(1322)瑩山禅師59歳の時、後醍醐天皇は、
臨濟僧、孤峰覚明和尚を使者として、10種の勅問を下されました。

これに対する禅師の奉答が深く帝の叡情にかなったので、同年8月28日、總持寺は「曹洞出世の
道場に補任」されて、その住持は紫衣の法服着用を公に認められました。更に、この年、9月14日、
藤原行房卿に命じられて「總持寺」の三字の書額を揮毫させ、これを賜りました。ここで總持寺は
官寺となり、一宗の大本山たることが認められ、勅定によって曹洞宗の教団であることを、
宗の内外に公称するようになりました。



總持寺祖院御朱印



總持寺(神奈川県横浜市鶴見)の御朱印

